令和８年１１月１日

第２６９号

関東の森林から

国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町４－16－25
TEL.027－210－1158
https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/



【写真】初期成長に優れた優良スギ植栽試験地における現地検討会（福島森林管理署）

◎ さらなる技術向上への挑戦　～研究発表会を通じた技術交流～　治山課　・・ 1
◎ 森林管理署等からのたより　群馬森林管理署、東京神奈川森林管理署　・・ 3
◎ 高尾の森から　高尾森林ふれあい推進センター　・・ 5
◎ 森づくり最前線！　磐城森林管理署　木戸森林事務所 森林官 山内　辰美　・・ 6

特集

さらなる技術向上への挑戦

～研究発表会を通じた技術交流～　治山課

関東森林管理局では、治山事業の技術研究や事例の共有を図ることで、治山技術の向上や森林保全にかかる理解を深めるとともに、関係機関の連携を築くことを目的として、各種研究発表会に参加しています。ここでは、今年度に開催されました「治山林道研究発表会」及び「治山研究発表会」について、ご紹介します。

第 61 回関東・中部地区治山林道研究発表会

「関東・中部地区治山林道研究発表会」は 1 都 15 県及び関東、中部森林管理局の治山林道事業に携わる技術者が、日頃の業務における技術課題の改善や取組成果について発表しています。



「UAV レーザーを活用した施設維持に向けた現地測量の省力化について」　上越森林管理署 鈴木 夢叶さん

古くは昭和 39 年（1964 年）から関東・中部地区の都県が持ち回りで開催しており、第 61 回となる今年度は、9 月 4 日、栃木県宇都宮市において開催されました。

発表会では 17 課題が発表され、関東森林管理局からは上越森林管理署の鈴木夢叶さんが「UAV レーザーを活用した施設維持に向けた現地測量の省力化について」をテーマに発表しました。

この発表は、地すべり防止工事での効率的な施設管理に向けて、UAV レーザーを活用し、既設工作物の状況を簡易に把握する手法について考察したものであり、昨今、ICT の導入が進む中でその有効性が期待される発表でした。

第 66 回治山研究発表会

「治山研究発表会」（治山研究発表会・治山シンポジウム実行委員会）は、治山に関する技術研究や情報交換等を目的に開催されており、第 66 回となる今年度は、9 月 10 日から 11 日にかけて、東京都多摩市において開催されました。発表会は 3 セクションに分かれており、関東森林管理局からは、第 2 セクション「保安林、盛土規制、森林保全等における取組」において、東京神奈川森林管理署の江澤賢伸さんほか２名が「富士山スコリア地帯における木杭根系工法の効果について」を発表しました。



「富士山スコリア地帯における木杭根系工法の効果について」

東京神奈川森林管理署　江澤 賢伸さん

共同研究者 越井木材工業株式会社　清水 賢さん

株式会社コシイプレザービング　壁野 宏司さん

※ スコリア：火山の噴火によって放出されたマグマが急速に冷えて固まった、多孔質な火山岩のこと。

木杭根系工法は木杭を人工の根となることなどを期待して斜面に打ち込み、表層崩壊（ひょうそうほうかい）を抑える工法のことで、大掛かりな仮設を必要としない点や木材を活用する点が特徴です。

この発表は、脆弱なスコリア分布が見られる堆積層の土砂移動を抑制するために本工法を採用した実証試験の結果を報告したもので、土砂移動が集中する冬期の凍結融解や降雨期において、その抑制効果が発揮されることが確認されました。また、木材利用の促進や環境負荷の低減に有効な手法として期待されています。



第２セクションにおいて、**最優秀賞を受賞しました！**
（写真中央：発表者の江澤さん）

関東森林管理局では、引き続き、現場で得られた知見や工夫、さらには失敗事例から得られた教訓も活かしながら、新技術の積極的な導入を図り、「さらなる技術向上への挑戦」を続けてまいります。

今月の“表紙”　初期成長に優れた優良スギ植栽試験地における現地検討会（福島森林管理署）

福島森林管理署では、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を目指す「新しい林業」の実現に向けた取組の一環として、平成 27 年（2015 年）6 月に「初期成長優良品種の性能評価試験地」を設定しています。この試験地では、エリートツリーなど初期成長に優れた苗木を導入し、下刈り作業の削減による造林の省力化・低コスト化の効果を検証しています。

令和 8 年（2026 年）9 月 25 日には、（国研）林木育種センターより、田村育種第二課長、松下育種研究室長を講師にお招きして、現地検討会を開催し、自治体職員や林業関係者など約 40 名が参加しました。参加者は試験地の生育状況を見学するとともに、これまでの調査データを基に、特定母樹等の導入による将来的な造林コストの低減効果について意見交換を行いました。今後も、試験地で得られた知見を活用し、再造林の推進や持続可能な森林経営に向けた取組を進めてまいります。





試験地で講師の説明を聞く参加者 ▶▶▶

現場発

森林管理署等からの便り

～現場の取組をご紹介します～

『ぐんまフォレスター連絡会』の取組について！　■群馬森林管理署



「UAVによる薬剤散布」をテーマとした技術交流会の様子
（令和8年10月15日開催）

民有林と国有林が連携して地域の課題解決に取り組むことは、森林管理署にとって、森林・林業施策を効果的に進める上で重要な業務の一つとなっています。群馬県、（国研）森林整備センター前橋水源林整備事務所及び群馬県内3森林管理署では、民国連携の推進を目的として、令和3年度に「群馬県フォレスター等民国連携推進連絡会」（ぐんまフォレスター連絡会）を設立し、地域のニーズに応じた技術交流会などを通じて、技術の相互研鑽や人材育成、市町村支援に取り組んでいます。

今年度も、各会員がそれぞれテーマを設定し、技術交流会等を企画しています。当署では、過去に設定した広葉樹試験地を交流会のフィールドとして、外部講師をお招きし、良質な広葉樹林の造成に向けた施業方法等について意見交換を行う予定です（11月下旬開催予定）。

今後も、ぐんまフォレスター連絡会を通じて会員相互の連携を深めるとともに、技術の向上と情報発信に努め、民国連携の取組を積極的に推進してまいります。

約1,600種の植物が息づく森へ　高尾山でのOJTを実施しました！　■東京神奈川森林管理署

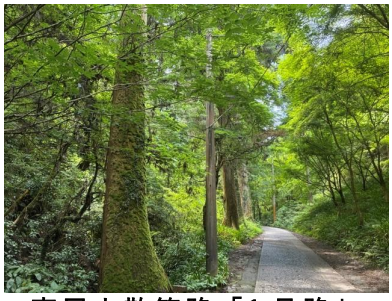
高尾山は、温暖な地域に育つ照葉樹と冷涼な地域に育つ落葉広葉樹が混ざり合う、全国でも珍しい森林です。約1,600種もの植物が自生し、「植物の宝庫」とも呼ばれています。高尾山の主な植生は、次のとおりです。

- **落葉広葉樹林（北側斜面）**：ブナ、イヌブナ、コナラ、ケヤキなど、温帯・冷温帯の広葉樹が見られます。
- **照葉樹林（南側斜面）**：カシ類、シイ類など、一年を通して緑の葉をつける暖かい地域の木々が自生しています。
- **針葉樹林・人工林**：モミやツガのほか、人の手で植えられたスギやヒノキも見ることができます。

斜面の向きによって、異なる森林の表情を見られることが高尾山の大きな魅力となっています。



高尾山の玄関口「清滝駅前」



高尾山散策路「1号路」

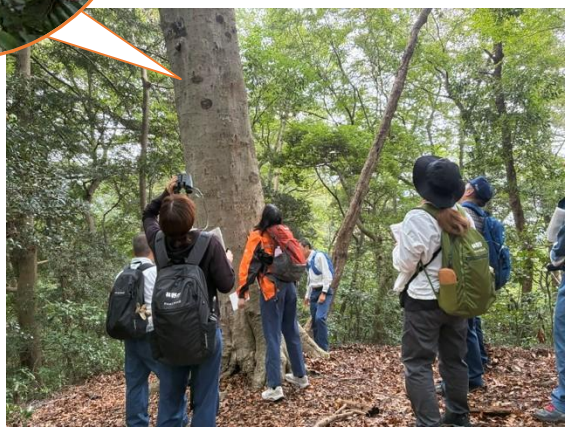
この豊かな自然環境と多様な植生を有する高尾山をフィールドとして、令和８年（2026年）10月２日、東京神奈川森林管理署と高尾森林ふれあい推進センターは職員の現地研修（OJT）を実施しました。

当日は、高尾森林事務所の職員が講師を務め、遊歩道を巡視する際のポイントや樹木の見分け方などについて解説しながら現地を案内しました。参加した職員にとっては、森林の管理や利用に関する現場の課題への理解を深めるとともに、森林の見方や歩き方を実践的に学ぶ貴重な機会となりました。

これからも職員の技術・知識の向上を図り、高尾山の森を守り、より多くの皆さまに親しんでいただけるよう取り組んでまいります。



ブナの実



ブナの結実状況を確認



樹木の見分け方指導

GREEN×EXPO 2027　～幸せを創る明日の風景～

令和９年（2027年）３月19日（金）から９月26日（日）まで、GREEN×EXPO 2027が神奈川県横浜市で開催されます。日本における最上位クラス（A1）の開催は1990年大阪花の万博以来、37年ぶりです。1,000万株の花と緑が世界中から集結して「幸せを創る明日の風景」を創り出し、様々な展示や体験を通じて、グリーン社会や自然との共生について考えるきっかけをもたらします。

詳細はこちら ▶▶▶ https://expo2027yokohama.or.jp　HPリンク▶▶

チケットサイトはこちら ▶▶▶ https://ticket.expo2027yokohama.or.jp/



メインガーデンイメージ（2026年３月現在）
画像提供：GREEN×EXPO協会

©Expo 2027



企画展示

世界自然遺産『小笠原』を守る林野庁の取組 を開催中!

平成23年（2011年）に世界自然遺産に登録された小笠原諸島では、島の面積の約6割を国有林が占めています。林野庁では、その多くを「小笠原諸島森林生態系保護地域」に設定し、貴重な自然環境の保護と適切な利用との調整を図っています。こうした取組を多くの方に知っていただくため、令和8年（2026年）8月24日から令和9年（2027年）3月31日まで、当センター展示室において、企画展示「世界自然遺産『小笠原』を守る林野庁の取組」を開催しています。



展示コーナーの様子

展示では、外来種の駆除による森林生態系の修復や希少種の保全など、森林生態系保護の様々な取組事例をパネルでご紹介しているほか、小笠原に生息・生育する希少種や固有種、代表的な外来植物についてもご紹介しています。





パネル展示の例

来館者アンケートでは、次のような感想が寄せられ、林野庁の取組への理解を深めていただく機会となったものと考えております。

・「未来に貴重な財産を残す地道な取り組みに頭が下がる、自分に何ができるのかを考える良い機会となった」
・「森林生態系や希少種の保護に配慮した取組がよく分かった」
・「今後も貴重な植物を守ってほしい」

当センターは、高尾599ミュージアムと同じ敷地内にあり、京王線高尾山口駅から徒歩約5分の場所にあります。高尾山登山を楽しんだ後に立ち寄られる方が多く、年間約1万人の方が利用されています。

今後も国有林の取組について皆様に知っていただけるよう企画展示を計画してまいりますので、機会がありましたら、ぜひお立ち寄りください。

高尾センター
ＨＰリンク

開館日・開館時間
をご確認ください。

連載シリーズ

森づくり最前線！

磐城森林管理署　木戸森林事務所　森林官　山内　辰美

私の勤務する木戸森林事務所は、福島県東部の浜通り地方のほぼ中央に位置し、温暖な気候に恵まれた楢葉町（ならはまち）南部、広野町（ひろのまち）及びいわき市の一部を区域とする約４千haの国有林を管理しています。管内は緑豊かな阿武隈（あぶくま）高地と太平洋の大海原に囲まれ、積雪も年に数回程度と比較的過ごしやすい地域です。

平成23年（2011年）3月11日に発生した東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、管内の大半が避難指示区域に指定されました。その後、避難指示の解除が進み、発災から15年が経過した現在では、施業可能な箇所から森林整備事業に取り組んでいるところです。

事務所の所在する楢葉町及び隣接する広野町には、日本代表クラスの選手も利用するサッカーのナショナルトレーニングセンター「Ｊヴィレッジ」があり、スポーツを通じた地域振興の拠点となっています。ほかにも温泉・宿泊施設を備えた「天神岬スポーツ公園」や、サーファーで賑わう「岩沢（いわさわ）海水浴場」など、魅力的な観光スポットが数多くありますので、ぜひ足を運んでみてください。

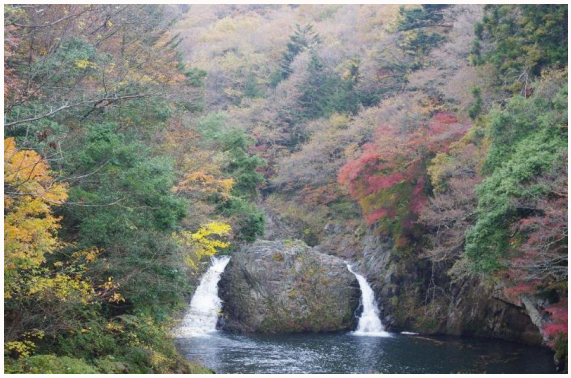
また、管内を代表する景勝地の木戸川（きどがわ）渓谷では、新緑や紅葉など四季折々の風景がおとずれる人々を楽しませています。木戸ダムから下流約3kmにわたり遊歩道が整備されており、「雄滝（おたき）雌滝（めたき）」や樹齢約1200年と言われる「じい杉・ばあ杉」など豊かな自然を身近に感じることができます。

しかし、近年は松くい虫やナラ枯れ等による枯れ木が増加しており、道路や施設周辺で倒木が発生するなど、安全面や景観面への影響が生じています。地域住民からも倒木処理に関する要望が多く寄せられていることから、関係機関と協力しながら対応を進めています。

今後も市町村や林業関係者との連携を大切に、地域に根差した国有林となるよう森林官として業務に取り組んでまいります。



Ｊヴィレッジ（広野町）



木戸川渓谷（楢葉町）
向かって左が雄滝、右が雌滝



木戸ダム（楢葉町）



請負事業体に安全指導する筆者


国民の森林・国有林